

Title	VI.広報活動
Author(s)	
Citation	霊長類研究所年報 (2009), 39: 99-100
Issue Date	2009-09-10
URL	http://hdl.handle.net/2433/166709
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が担当して、公開講座、研究所公開、オープンキャンパス（大学院ガイダンス）などを開催し、研究所の活動を所外の方々に紹介している。また、リーフレット、ホームページなどでも紹介・広報活動をおこなっている。

1. 公開講座

京都公開講座

2008年5月31日（土）、京都大学百周年時計台記念館にて、霊長類学発祥60周年を記念して京都公開講座「フィールドからラボへ」を開催した。参加者は183名。

<プログラム>

所長挨拶：松沢哲郎

特別講演：河合雅雄「霊長類学の60年を回顧する」

講演1：古市剛史「ヒトと類人猿の性と社会の進化」

講演2：濱田穰「老齢期の進化—チンパンジーにおばあさんはいるか？」

講演3：友永雅己「チンパンジーのこころの発達」

講演4：今井啓雄「ゲノムと霊長類学の近未来」

質疑応答

大山公開講座「サルから学ぶ」

2008年8月21日（木）～22日（金）、京都大学霊長類研究所にて開講した。参加者は64名。

<プログラム>

8月21日

挨拶：松沢哲郎

講義：西村剛「人類化石から探ることばの起原」

講義：正高信男「人間性とは何か」

実習・セミナー：

社会生態：橋本千絵

形態学：毛利俊雄

分子生理：今井啓雄

心理学：友永雅己

脳科学：三上章允・宮地重弘

8月22日

講義：半谷吾郎「サルの群れの栄枯盛衰～屋久島のニホンザルの人口変動と社会変動～」

講義：松林清明「サル飼育の新しい形～リサーチリソースステーションの試み～」

実習・セミナー：21日と同じ

東京公開講座「霊長類学の最前線」

2008年9月13日（土）、日本科学未来館7階みらいCANホールにて実施した。参加者は179名。

<プログラム>

所長挨拶：松沢哲郎

講義1：松沢哲郎「チンパンジーの親子と教育」

講義2：大石高生「指のうごきを取り戻す脳」

講義3：江木直子「霊長類の祖先が生まれた世界～化石動物相が教えてくれること～」

講義4：渡邊邦夫「スラウェシマカクの社会とその種分化」

質疑応答

2. 第18回市民公開日

2008年10月26日13:00から15:15まで市民公開がおこなわれた。内容は、半谷吾郎による講演「生物多様性の危機から地球を守るために～霊長類の役割、霊長類学者の役割、日本人の役割」とオープンエングロジャー・展示室の見学であった。参加者は45名。

3. オープンキャンパス・大学院ガイダンス

大学の学部生をおもな対象とし、大学院ガイダンスを兼ねた2008年度のオープンキャンパスを、2009年4月2日、3日に開催した。各分科の教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会が行われた。参加者は28名だった。

<プログラム>

4月2日（木）

開会の挨拶：松沢哲郎

大学院入試に関するガイダンス：半谷吾郎

講義1「霊長類の身体形態に見られる多様性」濱田穰

講義2「チンパンジーの生態とエコツーリズムによる森林保全」橋本千絵

所内見学1

講義3「霊長類の自己治療行動」M.A. Huffman

講義4「チンパンジーから探る心の進化—視線の問題を中心に—」友永雅己

講義5「サル、脳、遺伝子」大石高生

各分科の教員との懇談会1

懇親会（夕食を兼ねた立食形式の懇親会で、教員や大学院生とのコミュニケーションを図った）

4月3日（金）

講義6「霊長類の起源と進化」高井正成

講義 7「感染症の霊長類モデル研究」明里宏文

講義 8「霊長類ポストゲノムの挑戦」今井啓雄

所内見学 2

講義 9-1「ニホンザルの地域分化と保全遺伝学」川本芳

講義 9-2「霊長類研究所の飼育下マカクザル集団の遺伝的多様性」田中洋之

講義 10「高次脳機能研究の新展開」協田真清

講義 11「人間性って何だろう」正高信男

各分科の教員との懇談会 2

(文責：毛利俊雄)

VII. 自己点検評価委員会報告

平成 20 年度の上半期は、自己点検の一環として年報の冊子体作成とホームページ掲載を行った。年報の作成作業に際し、年報に掲載しない「業績」も含めて業績等データを集積しデータ・ベース化することを目標とした。また、前年度使用した年報用の入力プログラムは、締切間際に入力が集中してエラーが発生したので、入力作業軽減のために新しいデータ・ベース・プログラムを構築した。新しい入力書式での入力エラーなどを避けるため、平成 20 年度はすべて委員会でデータ入力作業を行った。その後、データ・ベースに入力された業績データの引用件数調査を行った。また、学内の大学評価委員会ととりまとめる「中期目標の達成状況報告書」ならびに「大学機関別認証評価」の基礎資料作りを行った。これに関連して、「教育・研究の現況調査表」、「教員活動状況報告書」、「平成 19 年度の研究活動等状況」、「第 1 期中期計画及び平成 20 年度計画の進捗状況」をとりまとめた。

自己点検評価委員会：三上章允（委員長）、濱田穰、半谷吾郎、宮部貴子、松沢哲郎（所長）

(文責：三上章允)